SDGs 徳島チームの取り組み　～南海トラフ地震からどのようにして身を守るか～

徳島チームは高校生３名、大学生 5 名で徳島市における防災について、SDGs の視点から、将来、発生するであろう南海トラフ地震への対策案や徳島市が抱えている問題を見つけ出し、解決手段を提案した。

まず、2019 年 7 月 14 日～15 日の合宿において、SDGs の基礎を学び、その後グループワークにて徳島市役所の方から徳島市の概要や防災対策の現状について話を聞き、メンバーそれぞれが事前に調べた事を共有し、目標設定をした。我々の最終目標は「住民の防災意識をより発揮できる街作り」である。徳島市は他県に比べても防災に対する取り組みは進んでいるが、その反面、地域によって住民の防災に対する意識に大きく差があることが問題点として分かった。そして我々は防災情報の伝達手段を工夫することで、地域住民の防災意識を高められるのではないかという仮定をした上で２つの方法を発案した。それが、①市内の見えやすい場所に避難情報（避難場所の距離などの情報）を掲示する。②防災マップを簡易化し、家庭内に避難場所の情報を掲示してもらう。というものである。

次に、8 月 7 日～９日の３日間で、徳島市内の５つの団体から話を伺った。訪問先は、NPO 法人日本防災士会徳島県支部、徳島県立防災センター、徳島市役所防災担当部局、津田コミュニティ協議会、徳島県立高校防災担当者である。この５つを選択したのは、それぞれの団体が異なる役割を担っており、様々な視点から徳島県及び市内の防災に関する話を聞き、現状を知った上で我々の提案の批評を図れるからである。またそれぞれのインタビュー後、必ず振り返りを行いグループメンバーの意見共有を行った。５つの団体それぞれの話を聞き終わり率直に感じたことは、徳島県の防災に対する一つの大きな目標は同じであるのに、団体同士での連携や情報共有などが、あまり行われていないことであった。

フィールドワーク後は学内発表に向けて、各訪問先で伺った内容の整理や重要視すべきポイントのリストアップ、提案策の批評と改善点を検討した。特に各団体の話の中で取り上げられていたのが、避難行動要支援者という災害時に自力で避難することが困難な方への対応であり、グループ内でも深く検討した。

９月の成果発表では、事情により高校生３名が参加することが出来なかったが、各々が協力し一つの企画案を発表することに成功した。今回の関西湾岸 SDGs チャレンジ徳島チームにおいては、全員が防災を深く知る良いきっかけになった。また、防災だけでなくフィールドワークをする上での注意点やプレゼンでの企画案のまとめ方、発表のコツを学ぶ良い機会であった。

参加者：【甲南大学】経営学部３年生　平井　洸希、法学部２年生　岡田　篤、
法学部３年生　竹内菜摘、経営学部１年生　深山　望彩、経済学部１年生　仙波　雪乃
【徳島市立高校】　３年生　清　樹希也、２年生　森　佑香、２年生　矢口　愛惟
指導教員：甲南大学マネジメント創造学部　准教授　倉本　宜史